

おむすび たかしま

25号

2014年10月発行



特集

地域を元気にする 女性の力をご紹介します!

平成26年度 協働提案事業
「まちの縁側・居場所プロジェクト」

NPO法人元気な仲間

連絡先 高島市新旭町針江291 TEL: 0740-25-8360
E-mail: office@npo-genki.com

INDEX

- 特集 地域を元気にする女性の力をご紹介します!
- たかしまの元気! 企業 ~ 株式会社ヤサカ ~ 健康への願いと地域の活性化を見つめて 安作美ファーム
- たかしま市民活動フェスタ2014実行委員会
- 第1回、第2回たかしま・未来・円卓会議を開催
- いろいろやっています! (in) たかしま 市内でがんばっているNPOや市民活動団体を紹介
- インフォメーション

かつて縁側の多くは、地域住民がつながれる憩いの場や投げ所でした。そんな場所を高島市にたくさんつくりたいと、NPO法人元気な仲間が、高島市役所、高島市社会福祉協議会と協働して、「まちの縁側・居場所づくりプロジェクト」を開始しました。サロン活動などをされている方や、これから地域のために何かできないかとお考えの方が参加した連続講座では、情報や意見の交換が活発に行われました。そして、受講者の中には、ご自宅の一部を有効活用し、縁側活動を始める方も出てきました。10月からは、プロジェクトの一環として、新旭駅西ショッピングセンター・エスパの空き店舗を利用して「まちの縁側」が開かれます。「まちの縁側・居場所プロジェクト」が高島市民の皆さんの元気につながるよう期待しています。

たかしま市民協働交流センター

INFORMATION

たかしま市民活動フェスタ2014 を開催します!

高島市の地域課題に取り組む市民活動団体・NPOやボランティアグループ、まちづくりグループが一堂に集まり、市民へ活動を伝える「たかしま市民活動フェスタ2014」を今年も開催します。

名称	たかしま市民活動フェスタ2014 あなたが主役～子どもたちの未来のために～
日時	2014年11月8日(土) 10:00~15:00
場所	今津東コミュニティセンター (高島市今津町中沼1-4-1)

今年のフェスタのテーマは「あなたが主役～子どもたちの未来のために～」として、今の子どもたちが大人になっても、この高島に住み続けたいと思えるような街の未来を思い描きながら、参加者同士が交流し、とものつくり上げるようなフェスタを目指しています。参加団体同士のコラボ企画や子どもたちが主体の企画など、過去にない取組みも盛りだくさん!この場での出会いをきっかけに、新たな【つながり】をいっしょに広げていきましょう!

平成26年度 たかしま・未来・円卓会議 開催中!

今年度は、参加者とともに選んだテーマを切り口に、高島市の地域資源を活用して、地域課題の解決につながる【小さなビジネスの種】を見出します!

- ◆第3回 テーマ「観光」を切り口にビジネスの種を見出す
日時 10月4日(土) 13:30~17:00
宿題 「観光」を切り口に、地域資源を活用し、地域課題の解決につながる事業のアイデアを考えてください。
- ◆第4回 テーマ「高齢者の生きがい人材活用」を切り口にビジネスの種を見出す
日時 12月13日(土) 13:30~17:00
宿題 「高齢者の生きがい人材活用」を切り口に、地域資源を活用し、地域課題の解決につながる事業のアイデアを考えてください。
- ◆第5回 テーマ「事業を具体化しよう」
日時 平成27年1月31日(土) 13:30~17:00
内容 第2回テーマ「自然」、第3回テーマ「観光」、第4回テーマ「高齢者の生きがい人材活用」で見出した「小さなビジネス」のアイデアを具体化するために。

●共通項目

場所	今津東コミュニティセンター ホール
講師	中川芳江氏 (Office SPES 代表)
定員	30名
参加費	無料
対象者	高島での起業に関心のある方、小さな仕事づくりに関心のある方など

申込・問い合わせ先 たかしま市民協働交流センター
詳細は、たかしま市民協働交流センターブログに掲載しています。

～ミーティングが楽しみになる～ ホワイトボード・ミーティング勉強会のご案内

ミーティングにホワイトボードを活用することで、ミーティングの目標や一人ひとりの発言を共有でき、参加者が主体的に、安心して発言できる雰囲気づくりができます。市民活動やボランティアのミーティングだけでなく、職場や自治会、家庭や学校などでも役立つホワイトボード・ミーティングの手法を勉強します。身近なテーマで、ホワイトボードの活用を体験します。発言しやすい質問の仕方や赤・黒・青のペンの使い分けなども学びます。

日時	11月18日(火) 19:00~21:30
講師	西川実佐子氏 (認定NPO法人しがNPOセンター 理事・事務局長)
場所	今津東コミュニティセンター ホール
参加費	500円

申込・問い合わせ先 たかしま市民協働交流センター
詳細は、たかしま市民協働交流センターブログに掲載しています。

NPO法人元気な仲間 たすけあい高島ボランティア募集!

困ったときはお互い様で支えあう「たすけあい高島」では、「たすけあい高島通信」作成のお手伝いをいただけるボランティアを募集しています。

通信は、A4サイズ両面で、年2回発行しています。活動場所は、新旭町針江の「NPO法人元気な仲間」とご自宅です。文章を書くのが好きな方、パソコンでワードやイラストレーターなどが使える方、ご連絡ください。

できることで、できる範囲でお手伝いをお願いします。

申込・問い合わせ先
NPO法人元気な仲間 たすけあい高島
TEL 0740-20-1313
FAX 0740-25-8370
E-mail tasukeai@npo-genki.com

◆ このページに関するご応募・お問合せ
たかしま市民協働交流センターまで、お気軽にお問合せください。

発行/たかしま市民協働交流センター
〒520-1622 滋賀県高島市今津町中沼 1-4-1
(今津東コミュニティセンター内)
TEL/ 0740-20-5758 FAX/ 0740-20-5757
MAIL/ webmaster@tkkc.takashima-shiga.jp
http://tkkc.takashima-shiga.jp/ facebook
http://tkkc.shiga-saku.net/ twitter
業務時間/ 祝日を除く月～金曜日 9時～17時

編集後記

おいしい新米の季節。食欲の秋、芸術の秋、読書の秋・・・。日頃の運動不足を薪割りや解消して、カマド炊きのおいしい「おむすび」を食べながら、ゆっくりと読書がしたい今日この頃です。皆さんの秋は、どんな秋ですか?

この印刷物は、古紙パルプを配合した再生紙と植物油インキを使用しています。

特集

地域を元気にする女性の力を紹介！

高島で地域課題や地域の魅力づくりに活躍する男性、女性、若者、子どもの活動をご紹介していきます。地域を支えるボランティア活動や市民活動の場面では、女性の活躍がめざましいと思いませんか？全国的に見てもボランティアグループやNPO法人などで活動するスタッフは女性の方が多いそうです。今回は、地域を支え、元気にしている女性の活動をご紹介します。

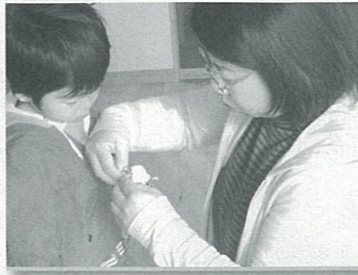
自分たちの将来のために、

安心の仕組みづくり

〇たすけあい高島
お問い合わせ先

NPO法人元気な仲間(高島市新旭町針江)
TEL:0740-2011313
(平日 9:00~17:00)

困った時はお互いさまの気持ちで会員同士が助け合う「たすけあい高島」は、高齢者や障がい者、子育て中の家族をできることでサポートする「まかせて会員」と手伝ってほしいこと、助けてほしいことを依頼する「よろしく会員」が支えあう仕組みです。現在「まかせて会員」は一二〇名。九〇%が女性です。高齢家庭で調理を手伝ったり、お部屋やお風呂などの掃除をしたり、買い物をしたり、子どもを保育園に迎えに行ったり、子どもの預かりなどをしています。



地域はふるさと、

地域で子どもを育てたい

〇藤江区の子どもの家
お問い合わせ先

梅村頼子(安曇川町藤江区)
TEL:0900-846916881

安曇川町藤江区は九七世帯、小学生二十一人。小学校からの帰り道、八割の子どもが「子どもの家」に寄って宿題をすませ帰ってきます。



また異学年で教え合ったり折り紙や絵を描いたり、遊ぶ約束をしたり、交わり合い子どもの居場所となっています。梅村頼子さんは、長年の教職経験を活かして地域で子どもを見守り育んでいきたいと思っています。行儀や挨拶、集中して学習をすること、子どもたち同士のふれあい、ぶつかり合いを大切に、人と人との関わりを大事にしてほしいと、昨年八月に「子どもの家」を始めました。子どもの頃に地域の人と関わり、たくさん体験と心に残る思い出を「高島子どもの宿」も実施。夏休みには、子ども達が企画した。「こどもカフェ」を開き、お年寄りとの交流や子どもの自主性も見られました。梅村さんは、「地域の方の温かい声がけと、力強い理解のある仲間がいることにより頑張れます。また、自分の特技や好きなことを活かして、楽しみながら子どもを育み、見守る地域人の仲間が、各地域にも広がれば」と話してくれました。

で、できる範囲で、「まかせて会員」として地域の支え(担い手)になっておられます。できることで地域の安心につながる活動です。ご参加ください。」とコーディネーターの貫井亜紀さん。まずは、今津ヴォーリス資料館で二〇月一五日(水)に開く、「まかせてサポーター養成講座」にご参加ください。



「じゃがめっしょかった」 の声をいつまで聞きたい

〇睦美会
お問い合わせ先

丸八百貨店(高島市朽木市場)
TEL:0740-3813711

地域の女性が親睦を目的に、年一回の旅行などを三〇年来続けてきた睦美会。平成十六年に高島市から丸八百貨店の管理と運営について相

高島に来てくださった方 の笑顔のために

〇Cafe Lac(カフェラック)
お問い合わせ先

高島市今津町今津八二
TEL:0740-2012808
(営業日 金・土・日・祝)

平成十七年、地域活性化を目的に浜通り商店街の湖に面した百年近い古民家が改装され、カフェが始まりました。カフェの開店に向けて商工会女性部の有志が京都へ料理を習いに行きました。



窓辺に広がる琵琶湖の風景に負けない料理をと、家庭では食べられないスパイスカレーをメインに、女性目線でプラスチックフリーのお得感を加えたメニューづくりがされています。また、浜通りの歴史について説明板を設置したり、通りから琵琶湖につながる小路「辻子(すし)」を地域の方と整備して、琵琶湖と生活の近さを感じていただけるようにしたり、訪れる人が楽しみながら歩ける通りをめざしてきました。代表の前川禮子さんは「まちづくりに関わって十年。自分が率先して動き、どんな時も後悔しないように精一杯、楽しくやってきました。高島を愛し、また来たいと思っただけのよう、心からのおもてなしの気持ちを地域に広げたい。」と仲間と活動を続けておられます。

談がありました。昭和八年に建設された丸八百貨店は朽木市場の賑やかだった頃の歴史を物語る建物です。まずは気軽に来てもらいたいと一ヶ月間はコーヒーなどを無料で提供。平成十七年一月から本格的にオープンしました。今では、一杯三〇〇円のコーヒーを楽しみながら、近所の高齢者がゆっくりにおしゃべりして、家庭の味のお惣菜を買って行くなじみの場所になりました。



「気兼ねなくゆっくりにしてもらえる場になっています。ここに来るのが大切な日課の方もおられます。お友達と会える場、つながりの場です。十年後は、私たちがゆっくりにコーヒー飲んでおしゃべりできるように、若い人もお誘いしています。」と代表の山本悦子さんと玉指順子さん。六五歳〜七八歳の八人が楽しみながら運営しています。

地域にもっと目を向けて、楽しく、 無理なく、ちよっとチャレンジ

〇新旭チャレンジクラブ
お問い合わせ先

TEL:0900-597713049(住友)

新旭青年団が新たに「新旭チャレンジクラブ」として活動を始めて十二年。現在、二〇代から三〇代の一四名が活動していますが女性が増えているのが特長です。メイン事業は夏と冬。みんなが盆踊りを楽しむアットホームな「新旭夏祭」は六年目です。準備はたいへんですが、「楽しみ」にしているよ」の声に励まされ、地域の保育園児や高齢者サロンの方に提灯などの絵付けをしてもらい、地域全体で作ります。クリスマスにはメンバーがサンタに扮し、お家にプレゼントを届ける「新旭にサンタがやってきた」を実施。子どもたちの素直なリアクションが嬉しくて楽しい事業です。高校時代から活動に参加している代表の住友亜也子さんは「自分のやってみたいことを皆の力を借りてチャレンジできる場です。地域のことを知り、たくさんつながりもできます。ここで若者が元気に活動していることを発信していきたい。」と話してくれました。



まだまだ、たくさん素敵な女性の活動が地域を支え、元気にしているのをお聞きしています。今後も地域を支える女性の活動を取材させていただきます。お伝えしていきたいと思っております。

たかしま市民活動フェスタ2014

8月4日、つながりカフェ※を開催しました！

24団体約40名の方が参加しました！

今年のテーマは「あなたが主役～子どもたちの未来のために～」と実行委員会で決まりました。子どもたちが大人になっても住み続けたいと思えるまちづくり、それに向かってさまざまな分野の市民活動が力を合わせていけるような関係づくりの始点と位置付けてスタートしました。

11月8日（土）のフェスタ当日に向け、参加団体同士のコラボ企画や子どもたちが主体の企画などアイデアがたくさん出てきました！出展者もお客さんもみんなが参加できるフェスタにしたいと思います！お楽しみに！



※「つながりカフェ」とは？
たかしま市民活動フェスタに参加しようと考えている団体が、お互いの活動を知りあい、今年の市民活動フェスタへの期待や思いなどを共有して、一緒にフェスタを作っていくきっかけにしたいと思い、開催しています。



平成26年度 市民による、市民のためのまちづくり

第1回・第2回たかしま・未来・円卓会議を開催しました！

高島にある地域の課題や「何とかしたい！」地域の困り事などを、市民、市民活動団体、企業、行政、学校、金融機関など、地域を支えるいろいろな人や組織がともに考え、力を出し合って連携し、協働によって解決策を見出していく場が円卓会議です。

第1回では「小さな仕事づくり」をめざして、これまでの円卓会議で出てきた地域の資源や課題から、今年度話し合うテーマを3つ、参加者とともに選びました。第2回は、1つ目のテーマ「自然」（里山・森林（森）・水・鹿肉）を切り口に、①薪のビジネス（薪の使い先を作りだすこと。山に入れる仕組みづくり、遊び場、薪の調達など）、②半農半林（農業体験、ヤギなど動物での里山管理 情報発信）、③シカ肉利用ビジネス（農家民泊、空き家・薪利用を合わせて）という【小さなビジネスの種】を見出しました。



円卓会議の様子

◆第3回10月4日（土） テーマ 「観光」を切り口とする

◆第4回12月13日（土） テーマ 「高齢者・生きがい人材活用」を切り口とする

◆第5回平成27年1月31日（土） テーマ 「事業を具体化させよう」を切り口とする

（詳細につきましては、裏表紙をご参照ください。）

地域を支える協働のパートナー、高島の地域を盛り上げる企業をご紹介します。

たかしまの元気！企業



健康への願いと地域の活性化を見つめて

－株式会社ヤサカ 安作美ファーム－ 代表取締役 八坂 正博さん

平成12年、49歳で肺がんと診断され、余命半年と宣告された経験から、日本人に合った食の研究を進め、滋賀の伝統食鮎寿司由来の乳酸菌と高島の有機米を使ったヨーグルト「アレルノン食品」を開発された代表取締役 八坂正博さんにお話を伺いました。

■ 食の大切さを痛感して伝統食を見直しました

◆ 米粉乳酸発酵食品の生産の経緯を教えてください。

本業は福祉用品のレンタル業をしています。企業は時代の先手を打ち、社会的責務を持って事業を進めると意識してきました。しかし、49歳で大学病院からホスピスを紹介されたとき、「西洋医学がギブアップした」と考え、自力で自然医学に向かっていきました。湖国には弥生時代より「薬喰い」されている鮎寿司があります。昔から高熱や下痢などに鮎寿司の飯が薬代わりに食べられてきましたが、癌にも効果が高いことを見つけたのがきっかけです。また、食事療法である甲田療法と出会い、食の大切さを痛感しました。

鮎寿司は食べられない方や他県の方にとっては食べにくいものです。一般に食べやすい食品として開発し、製法と効能効果が認められた特許を取得しました。今は、主に東洋医学の医療機関で食事指導に使われています。

■ 地域活性化のために、発酵食品を開発したい

◆ アレルノンとはどういう意味ですか？

アレルギー特定原材料等27品目を一切使わない食品という意味です。現在、アレルギーの専門医である京都市の鈴木診療所では、アレルノンを食事指導に使い、驚くほどの効果が得られています。このアレルノンと野菜を組み合わせれば、漬物風、サラダ風として使っていただけます。ドリンクタイプの「米乳百楽」やマヨネーズ風の「こめマヨ」や「おこめタルタル」なども商品化しています。アレルギーへの理解を広める目的で、アレルギーっ子の気持ちを考える会と協力し、アレルギーの子どもが主人公の絵本「てっちゃんのきゅうしょく」を市内有志とともに印刷して市内の公民館や医療施設などに配布しています。

今後は、高島で有機農業に取り組む方の野菜と米粉発酵を組み合わせ、付加価値を高める商品開発をしたいと思っています。発酵食品で、高島市の新産業や名物づくりに役立ちたい。同志と集まり、高島市の豊かで明るいまちづくりにお役に立てればと願っています。

お話をお聞きして、日々の食への関心を高めること、伝統の中にある食を学ぶことの大切さを感じました。高島の新しい発酵食品づくりが楽しみです。



〒520-1621 滋賀県高島市今津町弘川1308-19
TEL:0740-22-5432 FAX:0740-22-8880
ホームページ：<http://allernon.jp/>

いろいろやっています！ in たかしま

ここでは、市内のNPO、特徴的な活動のまちづくり団体や自治会が、どのようなきっかけで地域の課題に気付き活動を始めたのか、また活動の輪を広げていったのか、など、活動を展開する上での喜びや課題、これからのビジョンなどを取材して紹介します。

まちづくり会議で出会った

3人からはじまったNPO

NPO法人どっちんクラブ



平成16年、安曇川で行われたまちづくりの会合で、3名の方とグループになったことがきっかけで「せっかく集まったのだから、皆の得意なものを活かして何かしよう」と、特産品開発とまちづくりを合言葉に仲間が集まり、NPO法人どっちんクラブが立ち上がりました。今回お話を伺った代表の横塚守さんは、NPOの活動以外にも少年補導委員会の委員長を務めるなど、ボランティアやまちづくり活動に、精力的に関わっておられます。

NPOとしては、活動当初、特産品開発で「おやきづくり」などを行っていましたが、メンバーもそれぞれが仕事を持ちながらの活動でなかなか集まらず、活動自体が停滞し出しました。組織としての活動の難しさを実感します。

「石釜づくり」がターニングポイント

しかし、平成22年、市内のイベントで、大人子どもも楽しめるドラム缶でのピザ作りやカマドで炊くご飯体験を知り、「ガーデンングなどの仕事をする自分の特技を活かして、石窯やカマドを作る」と思ったことが転機となりました。

その後、高島市内のNPO団体と連携し、石窯づくりを体験型イベントとして、その指導を行ったり、手作りカマドでご飯を炊いたりする食育体験の場を提供することで、活動の輪が広がりました。今年も色々なところでパンやピザを焼いたり、カマドご飯を子どもに体験してもらっています。



代表の横塚さんが、今もメインで動いています。が「ピザやカマドのご飯を食べた人に『おいしい！』とってもらえることが、モチベーションになっている。もう少しメンバーに時間の余裕が出来るようになれば、いっしょに、たくさんの方が集まれる場づくりをしていきたい」と、その熱い思いを語ってくださいました。

NPO法人どっちんクラブ

(高島市安曇川町青柳20032002-1209)

- 会員数 / 10名
- 設立 / 平成16年(2004年)
- 代表 / 横塚 守

● 連絡先

電話・FAX
0740-32-1218

「備えと構え」で

”減災”を目指す、ボランティア活動

たかしま災害支援ボランティアネットワークなます

「たかしま災害支援ボランティアネットワークなます」は、平成13年に高島市民を中心に発足しました。代表の太田直子さんは、阪神淡路大震災はじめ、鳥取県西部地震や芸予地震の発生により「明日はわが身」との危機感を募らせ、「自分の命は自分で守る」ことの大切さを伝える活動の必要性に気づいたそうです。



現在メンバーは30人、ご夫婦での参加が多いのも特徴の一つだとのこと。「備えと構え」で「減災」を目指す、をテーマに【①防災・減災の啓発②自分たちの防災力向上③被災地救援・支援】の3本柱に沿った活動をしてられます。

人が集まる「笑って減災なます流」は、

参加型防災講座

「備えと構え」の大切さを伝える啓発活動では、

子どもからお年寄りまで、年齢や地域性に合わせた内容の出前講座を全国各地で展開。活動当初、伝えることの難しさを痛感し、防災・減災の話ができるだけわかりやすく伝える工夫を重ねる中、「楽しいことに人は集まる、プログラムに参加することで記憶に残る」ことがわかり、全員参加型の講座が生まれたそうです。

講座に使用するミニチュア家具や大型ロール紙芝居は、全て男性メンバーによる手作り。被災地支援はもちろん、自分たちの力をつけるための訓練や他団体との交流・研修をするなど、多様な活動を続けておられます。



取材の数日前にも、子ども対象のサバイバルキャンプを終えたばかりの太田さん。「災害というのは、いつ起こるかかわからないことなので、とりあえず自分たちが楽しくない活動は続かない。」と話されました。また、「方法や形はいろいろであっていいと思うので、後継者を育てようとは思わない」という潔さにも感心させられました。

大事に！きれいに！賑やかに！

が合言葉

海津・西浜・知内地域文化的景観まちづくり協議会



平成20年に「海津・西浜・知内の水辺景観」が、全国で5番目となる重要文化的景観※1に選定されました。これをきっかけに海津・西浜・知内地域文化的景観まちづくり協議会(以下、「協議会」)が発足し、現在、19名のメンバー(事務局など除く)で活動しています。今回、会長の小多明さん他、役員の方など5名の方にお話を伺いました。

選定された文化的景観とは、海津漁業組合旧倉庫など7棟と湖岸の石積み(約1.2km)の景観、琵琶湖岸の植物群や固有種の多い魚類なども含め、そこに今も続く水辺の暮らしの歴史や文化を指します。今年で6年目を迎える活動は、年2回の観光イベント「きんせ海津」を開催するほか、景観区域の清掃、会報誌の発行、研修会などを行ってられます。

江戸中期から続く水辺景観を、

全国に発信

マキノ駅構内に協議会としての看板を掲げた頃から、メンバーの意識も変わり、その活動はフェイスブック※2でタイムリーな情報発信を心がけており、全国各地からアクセスされています。江戸時代中期に築造されたとされる石積みを眺めに来られる観光客は毎年増え、ボランティアガイドの方が活躍しているとのこと。この活動をきっかけに地域の歴史や文化資源を整理することが出来たことも良かったとおっしゃっていました。



少子高齢化などの課題を抱えながらも、今後、「まちなかに、人と情報が集まる活動拠点が欲しい」と語る元気なお父さんたち。地元の町を大事にするそのお父さんたちの背中を見て、この地域の若い人が、今までも、そしてこれからも育っていくのだらうと感じる取材になりました。

※1 重要文化的景観

平成17年文化財保護法の改正により新しく誕生した文化財で、自然と人の暮らしが作り上げてきた文化的な風景を指す。

※2 フェイスブック

インターネット上で世界中の人と交流できる仕組み

海津・西浜・知内地域

文化的景観まちづくり協議会

(事務局・高島市マキノ町西浜12000-08)

- 会員数 / 19名
- 設立 / 平成20年(2008年)
- 会長 / 小多 明

● 連絡先

電話・FAX
0740-28-8002
(マキノまちづくりネットワークセンター内)